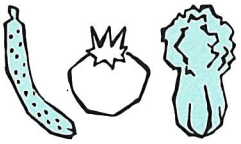
普及センターだより

家庭菜園の基礎知識



桜の花も咲き、春爛漫の季節となってきました。家庭菜園づくりにも熱が入ってくる頃だと思いますので、今月は家庭菜園を成功させるための基礎知識についてまとめてみました。

野菜づくりは土づくり

生産のための野菜作りでも家庭菜園でも、野菜作りを成功させるコツはまず土づくりにあるといえます。それには、野菜の性質に合わせた土づくりをしておくことが大切です。野菜には種類がたくさんあるので、それぞれ種類によって好む土の条件が違います。

なぜ土を耕すのか

土はひっくり返すことによって、土中あった有害な虫や微生物が表面に出され、日光や風雨にさらされて死滅したり、流されたりします。また、下の方にあった土は締って硬くなり、通気性や透水性が悪くなっていますが、上に出して風雨にさらされることによって、土の塊は崩れ、土は軟らかくなり、空気に触れることにより、有機物の分解も良くなり、肥料の効きも良くなります。

それでは、このような効果を大きくするためにはいつの時期にどのような方法でやればよいかという、1年の計画の中では、冬の間に行い、いつも根が張っている深さよりも少しだけ深く耕すのがよいようです。

土の酸度

野菜の性質に合わせた土づくりが大切ですと前にも書きましたが、その一つが土の酸度です。多くの野菜は土が酸性になると生育が悪くなり、品質の良い物がとれなくなりますが、逆に土がアルカリになると病気が出やすくなり、良いものがとれなくなる野菜もあります。大きく分けると、酸性に弱い野菜としては、ホウレンソウ、レタス、キャベツなどが代表的なもので、逆に酸性を好む野菜としては、じゃがいも、さつまいもなどがあげられます。この土の酸度を調節するためには、石灰が使われますが、野菜によって好む酸度が違いますので、一回にやりすぎないように、気をつけましょう。

知っておきたい気温と野菜の生育の関係

それでは、次に気温と野菜の生育についてみてみましょう。自然の植物は暖かくなれば、生育が良くなり、青々としてきますが、野菜は暖かくなればいつ種をまいたも、植え付けをしてもよいと言うわけにはいきません。特にいも類のように生育に長い期間を必要とする野菜では、植え付け時期をのがすと芋の肥大が悪くなり、期待した収穫を得ることができません。そこで、昔から農家の間では「こぶしの花が咲いたら、さといもを植え付ける」などと、自然を注意深く観察しながら作付けの適期を判断してきました。もっとも最近の野菜づくりはビニール資材が発達して、適期を早めたり、遅らせたりもできるようになってきています。家庭菜園の基本は露地栽培にあると思いますので、一年間の気温と野菜の生育の関係をよくつかんで、上手に家庭菜園を楽しんでください。

野菜科　加瀬　正敏

文芸

俳句

「海ほたる」より見る富士や春浅し　戸村　静華

豆撒くや隣家の声の凛として　福田　晴一

鬼やらい鬼の居らない成田山　今関　茂生

笹鳴や上京する子見送りぬ　小林　順子

笹鳴や次の一声またさるる　福田　幸子

槙塀に抜径（ぬけみち）ありて猫の恋　玉虫たけし

ほのぼのと寒明けを待つ老ひ心　土屋　栗水

からからと檜戸ひびく寒の内　藤代　ゆう

笹鳴を聞きつつ目覚め窓開けて　若梅あやめ

春を呼ぶみちのくみやげ笹子笛　選者　山口　一秋

短歌

子の笑ふ声運び来る昨日よりはつか光の増しし春風　八角　三枝

畑より友が一抱へ抜きくれし葱は車内につよき香をたつ　秋葉　悦子

拾円の銭もたまかに暮したる分家農家の若き日思ふ　鈴木　やす

藁囲ひの中に咲きゐる寒牡丹花びら風にはつかさ揺らぐ　押尾　輝子

黒に赤の漆ほどこす縄文の櫛わが町出土と知りて親しも　渋谷　静子

村里の女おびしゃの当番に手伝ふと来ぬ嫁も娘も　掛川　友代

総の地はいま北風（きだ）の季（とき）しんしんと満月空の真中に冴ゆる　永藤　滋

正月を過ぎたるばかりのコンビニは早や節分の豆を売りゐつ　中越美代子

山形より隣家に嫁ぎて五十年親しき友の逝きてしまへり　秋葉　とく

吾家の向ひに遺跡を掘る人ら憩のときか笑ひ声する　向後　房

如月の飛ぶ虫もなき吾が庭に紅梅の花芯揃ひ日を浴ぶ　宇井　ちい

靴底のかそけき音に歩をとめぬ樟の落実を吾が踏み来しと　選者　斎藤つね子